

令和4年度 学力向上プラン

学校名 中央区立月島第三小学校

学校の教育目標

・よく考える子 ・心ゆたかな子 ・健康な子

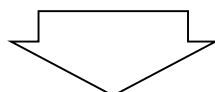
教育目標を達成するために学校として重点的に育成を目指す資質・能力（確かな学力向上にかかわる内容）

・各教科等の学習が横断的・総合的に進むよう工夫するとともに、基礎的・基本的な内容の定着を図るため、年間指導計画や指導方法の改善に努め、問題解決的な学習や自然体験、交流活動などを通し、思考力・判断力・表現力等を育成する。

令和3年度「学習力サポートテスト」や令和3年度学力向上プランの検証結果等の分析や、日常の学習の様子等から見られる課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国語	①言語（カタカナ、漢字、ローマ字）の習得が不十分である（約5割程度の正答率） ②文法（主語、述語、修飾語等）の理解や書こうとすることの中心を明確にして文章を書くことに課題のある児童がいる。（約6割程度の正答率）	①習熟量が十分でない。分からない言葉を調べる習慣がなく、国語辞典の活用が十分でない。 ②伝えたい内容を絞ったり、要約して書いたりする力が身に付いていない。事柄の順序や段落相互の関係性に注意して文章を構成する力が身に付いていない。
算数	①文章問題の読み取りが苦手である。（約7割程度の正答率） ②時計の読み方（低学年）、分数（中・高学年）が苦手である。（約6割程度の正答率）	①問われていることを言い換えたり、図式化したりする力が身に付いていない。 ②日常生活における算数的な活動が不十分である。
社会	①地図などの資料から読み取る力が弱い。（約5割程度の正答率） ②知識の定着が不十分である。（約7割程度の正答率）	①日常的に地図に親しむ経験が少ない。 ②それぞれの情報のもつ意味を自分の日常生活と結びつけて考えることを苦手としている。体験や経験の不足も関係している。
理科	①知識としては知っているが、実体験が少ない。 ②自然に対する関心が低い。（約5割程度） ③仮説を立てたり、仮説を解決するためにどのような実験が必要かを考えたりする力が弱い。（約5割程度の正答率）	①②植物や昆虫にふれ合う機会が少なく、それらに興味・関心をもつ体験や経験も不足していることが考えられる。校内においても観察についての意図的な働きかけや取組は十分とはいえない。 ③理科の学習の仕方が定着していない。
英語	①英語でコミュニケーションをとる際に既習表現を活用できない。 ②アクティビティ等で他の児童や教員と話すときに、安易に日本語で伝えようとする。	①既出表現の復習不足。 ②外国人と話した経験が少ない。授業において、児童が安易に日本語での発言する雰囲気がある。
体育	①全身持久力、投力の面で改善が必要である。 ②器具や用具を使う運動というよりも自分の体をうまく動かしたり操作したりという面で課題がある。	個々の児童の運動経験や生活習慣といった個人差が大きく影響している。児童数増加による外遊びの機会が制限されていることもある。マイスクールスポーツの縄跳びを年間取り組んできたが、まだ体力向上に結びつくまでに至っていない。

学力向上に向けた視点	年度末までの目標及び指標
① 学力基盤	<ul style="list-style-type: none"> ・聞く態度を重視し、常に傾聴する姿勢を身に付けさせる。学習用具の準備やノートのとり方など集中して学習に取り組める習慣を身に付けさせる。 ・都学力調査におけるA・B問題の正答率が都平均以上を目指す。(AB問題正答率約80%)
②授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ・児童一人一人が課題に向き合い、自力で取り組もうとする課題や発問を考えるとともに、ペアやグループでの学び合いが効果的になるような学習展開を設定する。 ・問題解決的な学習や体験的な学習を単元の目標に応じて意図的に設定する。 ・都学力調査におけるA・B問題の正答率が都平均以上を目指す。(AB問題正答率約80%)
② 教員の指導力	<ul style="list-style-type: none"> ・課題や作業の手順を明確に示し、授業におけるゴールを児童がイメージできるように授業を行う。教師が個々の課題を明確に把握するとともにそれぞれに応じた支援方法を定め、実践し、検証する。 ・保護者・児童のアンケートで、問題解決的な学習、自然体験、交流学习に対する肯定的な評価が80%以上になることを目指す。
④家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での学習習慣を身に付けさせるために、家庭に対して宿題チェックや学習用具の準備をお願いするとともに、児童と学習についての会話を増やしたり、苦手な部分を把握したりすることを重視して家庭と連携する。 ・保護者・児童のアンケートで、家庭との連携に対する肯定的な評価が80%以上になることを目指す。
⑤体力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・児童一人一人の運動に親しむ習慣や体力状況に応じた授業を意図的・計画的に実施する。 ・体力テストについて、どの種目も都平均以上を目指す。また、投力を重点的に指導し、都平均以上約80%達成を目指す。



【目標達成のための具体的な取組内容】

①学力基盤	
取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業規律を改善するために、学年に応じた指導について学校全体で共有を図る。 ・児童が聞く度を身に付けるために、まずは教師がその姿勢を示し、児童の些細なつぶやきや発言に関心をもって聴くようにする。 ・月三小スタンダードを日常的に確認し、学習の用意が整うように声を掛ける。 ・あさしお教室の教員と連携を深め、学習環境を整える。
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習のはげみタイム（言語的な学習や読書活動など）やチャレンジタイム（算数の基礎的な学習）を通して、基礎基本的学習の徹底を行う。 ・理科の学習では、単元の終わりに学習全体を振り返ったり学期末にこれまでの学習を振り返ったりして、既習内容の定着を図る。 ・放課後補習のあり方を見直し、学力向上につながる取り組みにする。
取組Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が教室で安心して過ごし、学習に対して前向きに取り組めるように肯定的に励ましたり、良さを伸ばしたりする声かけを心がける。

②授業改善	
取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ・対話の進め方を指導し、対話を活用した学習活動を取り入れる。何について話し合うのか、視点を意識して話したり聞いたりする習慣を身に付ける。 ・聞き合う取り組みを通して、受容的態度を身に付け、他者から学ぶことの良さを実感できる授業作りを目指す。 ・ペア活動やグループ活動を多く取り入れて、児童がすすんで発表する力を身に付けさせる。根拠をもって意見が言えるようにする。
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の「考えを述べる、説明する」力を付けるために各教科において書くことの日常化を図る。主語、述語を意識して、文章を書かせる。 ・問題や図表等から読み取ったことを基にして、分かったこと、考えたことを相手に伝える活動を取り入れる。そのために、読む視点を明確に示したりねらい達成のための読解力の視点を適切に取り入れたりする。
取組Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> ・体験学習・問題解決学習を重視した授業改善を図る。

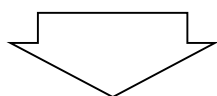
③教員の指導力	
取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究をはじめ、OJT を通して授業参観し合い、全教員が互いに学び合う機会を毎学期設定する。授業展開や児童への指導の仕方などを実践・検証し、教員の指導力向上につなげる。
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・課題や作業の手順を明確に示し、各教科で振り返りを行う。日常の授業の様子をはじめ、単元の間及び終了時にノートやミニテストなどにより児童の理解度や課題を把握する。
取組Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> ・児童一人一人の発達段階や特性を十分踏まえ、適切な助言をしながら、コミュニケーションを図り、安心感を与えながら意欲を引き出す。

④家庭との連携

取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none">・児童の学習状況をもとに、放課後の補習（算数等）の取組について保護者に理解を求めていく。・保護者会や個人面談、学校便り、学年便り、ホームページ等で学校からの協力してほしいことを繰り返し伝える。またそれによる成果や課題も示していく。・毎日の共通の宿題や自主学習の習慣が身に付けさせるために家庭学習への理解を求めていく。個人に配布されたタブレットを活用していく。
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none">・生活科や総合的な学習の時間等で、地域や保護者と積極的に関わるような学習活動に意図的・計画的に取り組む。
取組Ⅲ	<ul style="list-style-type: none">・保護者との関わりについては学年として対応するように心掛け、それぞれの学級での問題や悩みも学年の教員、専科等と協力して解決を図る。

⑤体力向上

取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none">・バランスよく体力向上ができるように、学年毎に体力テストの結果を分析し、弱点を明らかにする。
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none">・ボールを扱う運動を取り入れる際に、学年に応じて動きのコツを示しながら楽しんで取り組める内容を考える。・どの学級でも体幹を鍛える運動を準備運動の段階で共通して取り入れる。
取組Ⅲ	<ul style="list-style-type: none">・縄跳びの活動を積極的に行う。短縄では、縄跳びカードの活用やゲストティーチャーを招いての指導などを行い、長縄では、全校で取り組み期間を設け、互いに切磋琢磨できる場を設けるなどをする。



【取組結果の検証】

学力向上に向けた視点	取組の成果	取組の課題及び解決策
① 学力基盤	<ul style="list-style-type: none"> ・学年に応じた指導について学校全体で共有し、授業規律が改善された。 ・月三スタンダードを確認し、学習の用意が整うようになってきた。 ・朝学習のチャレンジタイムで中期的な視点で計画を立て、基礎基本的学習の徹底を行った。 ・あさしお教室の教員と連携を深めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習用具が揃わず、余計な物を持ってきていることがあるので、月三スタンダードを日常的に確認する。 ・時間を守るように目標時間を示していく。 ・朝学習のはげみタイムを学年で計画を立て、効果的な指導につなげる。 ・児童自身が自分や友達の発言の類似点や相違点などを見付けて話し合えるように児童に発言を返す。
② 授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ・国語で学んだ対話の進め方を活かしたり、グループ活動を多くの教科で取り入れたりすることで、根拠をもって発表することができた。 ・体験学習や交流学習を積極的に行うことで、実感を伴って学んだり相手意識をもって学習に取り組んだりすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見をもつことが難しい児童には、思考ツールを活用し、自分の意見を整理して自信をもって話し合いに臨めるようにする。
③ 教員の指導力	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業に向けて、学年や教科ごとのグループで話し合い、1つの単元について様々な展開方法を考えることができた。 ・OJTを通して、若手教員が学ぶ場を計画的に行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業の機会などを活かし、互いの授業を見合って助言できる機会が増えるとよい。 ・学習の流れや進め方を学年で共有し、よりよい指導力向上を図る。
④ 家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習で観察が必要な単元は、一緒に観察に出かけてもらい、連携を図りながら学習内容を深めることができた。 ・週に1度以上、クラスルームを通じて学年の学習や生活について保護者に配信し、児童の実態が分かるように努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校からのお知らせを見ていない保護者へ年度初めや保護者会等で周知し、連絡漏れがないようにする。
⑤ 体力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・体力テストの結果から、弱点が明らかになった。 ・ボール運動で投げる力を養っている。 ・縄跳びチャレンジに向けて練習し、長時間跳べるようになった。 ・縄跳びカードを活用して、段階的に練習することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・縄跳びチャレンジ期間だけでなく、学年・学級で継続して縄跳びに取り組んで体力向上を図る。 ・体幹を鍛える運動が不足しているので、手立てが必要である。